ETAJIMA GoON! Vol.9

大好きな自然を感じられるから、この仕事を選び、続けられている。

坂村 陽平さん

GoON!

小蔦 道雄さん

とにかく力仕事！ THE・海の男

（写真）「割と怪我が絶えない仕事なんです」と、海に浮かぶ牡蠣筏の上を走り回る坂村さん。ロープやワイヤーを手早く人力で張っていき、牡蠣筏を船で曳航していく。

海中に浮遊する牡蠣の赤ちゃんを付着させるため、言われたポイントに運んだり、移動させたり。取れ高に関わって来る重要な時期に一緒に仕事をする、そんな船の仕事です」立派な牡蠣が育つように、潮の流れに合わせて筏を運ぶ。牡蠣養殖業を支える、とても大切な裏方仕事だ。

「凄いでしょ。江田島の海中には牡蠣筏がたくさんあるんですよ」船のレーダーを見せてもらうと、画面には無数の牡蠣筏のマークが広がっていた。「こんな感じで、たくさん並ぶ牡蠣筏の間を抜けて進み、牡蠣筏の上で仕事をしている方もいらっしゃるので、波を立てないように慎重に船を動かします。自衛隊の船も通るので、思ったよりもたくさんの配慮が必要な仕事なんですよ」実際に乗船させてもらい、体感した仕事の危なさ。筏が壊れる可能性も考え、微妙な力加減や操縦テクニックが想像以上に必要な仕事だった。「裏方ではありますが、牡蠣養殖業にとっては無くてはならない仕事。自分たちが牡蠣筏を運んで、牡蠣屋さんが良い牡蠣を育てられるような環境を作り上げていきます。牡蠣養殖業は江田島市を支える仕事のひとつ。より良い牡蠣が生産されるように私たちも頑張らないといけません。この仕事は危険な作業が多いので、仕事中は全く気を抜けないですね」

特別な瞬間に出会える江田島市

18年間も続いた人気店のオーナーから一転、海の仕事にキャリアチェンジをした坂村さん。「牡蠣養殖業を支えたいという気持ちはもちろんですが、本能的に『海が好き』だと思ったからこそ、この仕事を選び、続けられているのだと思います。昔から、なんとなく田舎暮らしがしたい、船に関わる仕事がしたいと思っていたので、大変ではありますが、とても充実した毎日を送らせてもらっていますよ」

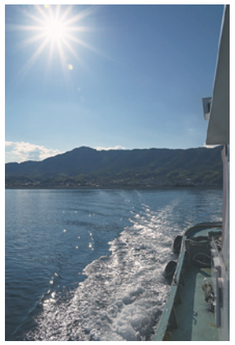
本能的に『海が好き』——坂村さんは昔から、いつかは田舎に住み、自然を感じることのできる生活がしたいと思っていた。「お店を閉めた後、実は、本業を生かして山の方に移住して果樹園で働く予定だったんです。ご縁があって準備も進んでいたんですけど…」準備を進める中で感じた『海の近くに住みたい』という思い。無数の魅力的な島がある中で、昔から縁を感じていた江田島市が頭に浮かんだ。

「僕は、子供の頃から自転車競技をしていたのですが、選手として江田島で練習する機会が何度もあったんです。だから江田島には親しみがあって…お店を始めてからは、お客さんと一緒に来ることもありました。市内から近いし、江田島いいじゃん！って盛り上がって（笑）。一時期はしょっちゅう江田島に来ていましたね」年末には毎年200人ほどの人が集まって、市内でイベントも開催していた。お客さんや自転車仲間だけではなく、自転車屋さんや他団体の人たちも集まるようになり規模はどんどん大きくなっていったという。このイベントも、結果的に江田島市にお金が落とせる仕組みにしたいと思って動いていた。「昔からお世話になっていた江田島に貢献したいという思いがずっとありました。そのうち、もし江田島に移住するなら、基幹産業に携わる仕事がしたいなと思うようになって…本当に移住して船の仕事に就きましたね（笑）」

移住して2年目。仕事にも慣れ、新しい生活を楽しむ余裕も出てきた。「近所の人に野菜をもらったり、植木を切ってあげたり、都会には無い生活を楽しみながら毎日過ごしています。仕事中も、朝焼けや夕日を見たり、スナメリに出会ったり…自然と共に生活していると、そういう感動的な景色や瞬間と出会えるのが最高です。この特別感を味わう度に、江田島に移住して良かったと思いますね」

昔からお世話になっていた江田島市の役に立ちたいと思ってから、移住までが早かったね！と笑う坂村さん。たくさんの人から愛された人気店を閉じ、街から離れた。漠然と、自然の感じる生活がしたい、何かに、誰かに恩返しがしたい…考えた後、本当に行動できる人はそう多くはない。坂村さんの行動力と男気は、決して目には見えなくても、江田島市を支える大きな力になっていることだろう。

写真：坂村さんが船から撮影した、特別な瞬間。朝焼けや夕焼けでなく、貴重な船などにも出会えるそう。



Live

Vol.9

えいこう
ゴーセン曳航株式会社

坂村 陽平

the life you love.

海が好き。

写真撮影：コニシシュンスケ

やっぱり、

江田島市の基幹産業「牡蠣養殖」。そんな江田島市にとって大切な仕事を海の上から支える『裏方』さんがいることを知っていますか？大幅なキャリアチェンジを経て、牡蠣養殖業を支えるひとりとなった坂村陽平さんにお話を伺いました。

大幅なキャリアチェンジ！ 牡蠣養殖業を支える 過酷な『裏方』仕事

2019年1月25日。広島市・袋町にある人気のお店『モダニティカ』が惜しまれつつも閉店した。お店のオーナーだった坂村さんは現在、江田島市の海上で船を操縦している。「本業は土木とか造園関係の仕事だったんです。僕は庭師を長いことやっていたのですが、お店をオープンして、たくさんの人に支えられながらいつの間にか18年。最初から閉めるタイミングは自分の中で決めていたんですけど、そのまま続けていたらコロナで大変なことになっていたと思いますし、江田島にも来ていなかったでしょうね」開店当初からお店で出会ったカップルが100組を超えたら店を閉めると決めていた坂村さん。結果的には、なんと110組ものカップルが誕生したそう。そんなユニークな経歴を持つ坂村さんは、どのような経緯で江田島市に移住し、船を操縦することになったのだろうか。

坂村さんの勤める「ゴーセン曳航株式会社」は、海上に設置されている牡蠣養殖筏を、牡蠣業者さんの依頼を受け、広島湾に点在する様々な漁場へ船で曳航して設置する仕事を行う会社だ。「簡単に言うと、牡蠣屋さんが漁場で育てている牡蠣筏を、船で色々な場所に持っていく。『種の時期』といって、